



Michele Kruger
South Africa

巻頭言

ニューデリー大会の総括と来年への展望

今年のデリーでの FIDIC 会議に出席された方々は、世界中の同じ志を持つ多くの若手専門職に出会えて良い刺激になったと思っているだろう。会議では、若手専門職(YP)のためのプログラムを開催し、多数の方々に参加いただき大いなる盛り上がりを見せた。イベントに参加いただいた方々に感謝！

YPFSC が主催したコンサルティング会社の後継者育成の重要な問題に関するビジネスフォーラムは好評であった。業界のリーダーの高齢化が明白な課題となっている中、コア戦略として技術革新に対応し企業の競争力を維持するために、どのように将来のリーダーを選抜・育成するのかがますます重要になっている。

序盤に、各国から様々なケーススタディが示された。その他、同属経営における事業継承、発展途上国における後継者育成、どのようにすれば熟練技術者が YP を最良に支援できるか、熟練技術者はどのような品質を求めているのか、若手専門職が企業に所属し続けるために、会社に見出す価値は何であるかなどの問題が議論された。

全般的には、熟練技術者と YP は同じくらいの熱意と責務を示すことが必要であり、オープンなコミュニケーションと強力な指導が重要である、との結論であった。

会議における他の YP 活動の内容:

- ✓ 運営委員会におけるインフォーマルな形式での自己紹介と YP 活動の紹介
- ✓ FIDIC 実行委員会での会議・・・FIDIC 実行委員会の役割の説明、実行委員会によって開催されたオープンディスカッション(コンサルティングにおける YP の将来について。特に、世界の景気後退とそれをどのように切り抜けるか、など)
- ✓ デリー地下鉄の YP テクニカルツアー(地下鉄でオールドデリーへ行く小旅行を含む)
- ✓ 晩餐会では豪華なインド料理が振舞われ、コンパニオンによる素晴らしいダンスが行われた

私は FIDIC YPF 運営委員会の新議長の立場を引き受けることを大変光栄に思っている。そして、私たちの仕事にいつも熱心に関与しようとする素晴らしいチームを持つことでとても幸運である。ニューデリー会議を成功に導くことに協力したすべての運営委員会メンバー、そしてあなた方のこの一年の協力に感謝する。委員会を卒業する人たちに対して、価値ある貢献に感謝するとともに、将来の成功を祈っている。そして、ようこそ新しいメンバーのみなさん、イランから Manoochehr Azizi、日本の北野知行氏、トルコから Salih Burak Akat、リビアから Hisham S Ghellali。私たちはいつもあなたたちと仕事をする、そして来年の大成功をととても楽しみにしている。私たちが次のニュースレターで発表できるように、どうか、あなたの国の若手専門職グループについての記事を送ることを忘れないでね。そしてこれを楽しんで！

Michele Kruger
FIDIC YPF 運営委員会議長



Selena Wilson
Canada

FIDIC 2010 ニューデリー大会

9月19日から22日にかけて、インドのニューデリーにおいてFIDIC年次大会が開催された。今大会の主題は技術イノベーション管理の進展方法であり、3日間に亘ってコンサルティング産業におけるイノベーションに関して様々な観点から大会で検討された。1日目は「プロジェクトにおけるイノベーションの提供」、2日目は「プロジェクトの持続可能性」、3日目は「イノベーションの過程」を主題とした。このプログラムでは総会、ビジネスおよびワークショップセッション、若手専門職プログラムおよび代表団同士の交流活動から構成された。

若手専門職会議運営委員会 (YPFSC)

FIDIC 若手専門職会議委員会が、今大会において若手専門職プログラムを成功裏に企画した。2009年から2010年にかけて議長であった Nader Shokoufi 氏と副議長であった Michele Kruger 氏が、委員会企画小委員会の議長である Prashant Kapila、新聞・ウェブサイト小委員会の議長である Selena Wilson、および若手専門職委員会の行事を統率しながら大会計画を全体的に後押しする Tian Feng と共に出席した。

今年は全代表団に届く若手専門職会議運営委員会 (YPFSC) の活動報告誌の第一回目の出版に至った。この報告誌は、イラン、カナダ、南アフリカ、トルコ、日本そして中国の6つの若手専門職団体の活動および経過報告を要約したものである。

100人を超える若手専門職の代表団の今大会の参加により、FIDIC 若手専門職会議プログラムは活発で興味深いものとなった。若手専門職達は広範で特別な活動に参加した。メリディアンホテルでの交流会、継続的に企画されている若手専門職の公開討論会、未来の指導者勉強会、デリーメトロを巡る若手専門職技術視察、そして若手専門職夜の交流会などである。

大会の見所

9月19日 日曜日

大会のプログラムは、日曜日にメリディアンホテル最上階のヘンリー・バーにおいて始まった。これは、正式な歓迎会を前に若手専門職を迎え入れるための非公式なものである。次期議長の Michele Kruger の砕けた演説を通じて、委員会メンバーが紹介され、FIDIC における YPFSC の役割、若手専門職の大会企画、大会に関する若手専門職の活動の予定が簡単に説明された。

9月20日 月曜日

月曜日の午前中、Gregs Thomopoulos (Stanley Consultants、アメリカ) を議長に迎え、プロジェクトのイノベーションの提供に関する最初の総会が開催された。

Chris Cole (WSP、イギリス) は無理なく扱えるイノベーションに関して討議し、イノベ



歓迎会での若手専門職代表団 左から：Joel Mc Alister と Selena Wilson (カナダ)、Meggyn Visser と Michele Kruger (南アフリカ)、Nader Shokoufi と Manoochehr Azizi (イラン)

NEWSLETTER

YOUNG PROFESSIONALS FORUM
INTERNATIONAL FEDERATION OF CONSULTING ENGINEERS

ーションは狙った以上のものでなければならず、これがプロジェクトの企画段階において発揮されれば非常に効果的であると述べた。

同氏はまた、この過程において才能のあふれた若手専門職を活用すること、また技術革新的なプロジェクトの成功のために独創的かつ技術領域を超えて専門知識を活用することの重要性について触れた。

Harrie Noy (Arcadis、オランダ) は、違いを生み出すためのイノベーション管理について言及し、経済が徐々に回復基調にありながらも流動的である状況において、政府の財政不足がインフラ開発に直接的に影響を与える事を指摘した。

昼食の後、総会に引き続いて3つテーマから成るビジネスセミナーが開催された。議題は、

1. イノベーションを後押しするもの、
2. イノベーションを実証する研究開発、
3. プロジェクト・ファイナンスにおけるイノベーション

である。

これらのセッション中に協議された議題の一つは、気候変動がどれほど重要なイノベーションの外部要因であるかという点を含んでいた。気候変動に対して増大する社会的な意識と一般的な認識は、民間部門における新たな需要を創出している。

大企業は、持続可能な商品に関する消費者の需要を認知しており、これに対して政府よりもかなり迅速に対応している。

イノベーションの障害となるのは、従来のコスト重視の姿勢、エンジニアリングを支援する資料不足、閉鎖的思考、そして失敗に対する恐怖である。

月曜日の午後は、沢山の若手専門職とベテラン代表を交えた公開討論会が開催された。今年の論点は後継者育成であり、南アフリカ、アメリカ、日本、イラン、インドからの5名が各々のテーマに対する各自の見解について発表した。

その後、専門家団員は小グループに分かれ、様々な疑問について議論するために、ワークショップを行った。これは、YPFSCがこの討論会のために用意したものである。公開討論会に関する詳細は、ニュースレターの北野知行氏の記事に記載されている。

9月21日 火曜日

火曜日午前中の全体セッションでは、プロジェクトの持続性が焦点に当てられた。Kiran Kapila (ICT、インド) が議長を務め、2004年に作られたプロジェクト持続性マネジメント (PSM) ガイドラインの進展について、John Boyd (Golder Associates、カナダ) FIDIC 元会長が論じた。ガイドラインで扱う6つの主な課題、つまり水、エネルギー、資材、環境、健康および安全、それから人権に対するプロジェクト持続性を測る65個の当初の指標を簡素化する必要について述べた。すべてのプロジェクトには、持続可能な戦略を採用する新たな緊急性がある。というのも、主要な焦点は顧客だけではあり得ず、多くの間接的な利害関係者を含むすべての利害関係者を満足させなければならないからである。

全体セッションに続き、午前中のビジネスセッションでは4. 気候変動への挑戦、5. 包括的な開発、6. プロジェクトイノベーションの枠組みが議論された。ビジネスセッション4. 気候変動への挑戦では、気候変動は現実の問題であり、日増しに悪化しているという全体のコンセンサスが得られた。コンサルティング・エンジニアは、この問題に対する解決策を提供する主要な役割を果たさねばならず、価値のある先行投資のため顧客を教育するという挑戦にも言

及された。革新的な設計と技術の先進について官民両方の顧客を教育するため、コンサルティング・エンジニア団体を支える行動が FIDIC には要求される。

火曜日午後のセッションは将来の指導者向けワークショップが含まれていた。このイベントでは若手専門職経営トレーニング・プログラム 2010 (YPMTP10) の修了者がプログラムの期間中に何を学んだか、またコンサルティング産業における将来の展望についてプレゼンテーションを行い紹介した。共同演説で持続可能性、コンサルティングに対する大衆のイメージやイノベーションへの高まる需要といった重要な問題に取り組んだ。若手専門職経営トレーニング・プログラム 10 の追加情報については、本ニュースレターの若手専門職経営トレーニング・プログラム 10 の参加者であり、YPFSC メンバーでもある Manoochehr Azizi の記事を確認のこと。

将来の指導者向けワークショップの後は、若手専門職の技術視察であった。若手専門職代表団は Delhi Metro の Patel Chowk 駅に向かい、駅構内にあるメトロ博物館で N.D Khanna 館長氏に出迎えられ博物館を視察後、オールドデリーにある Chowri Basaar 駅行の列車に乗車した。多忙な一日は、若手専門職が楽しめ寛げる地元のレストランでの若手専門職の社交行事で幕を閉じた。

9月22日 水曜日

全体セッション3では、Pablo Bueno Tomás (Typsa、スペイン) がイノベーションにおけるプロセスについて議長を務めた。Peter Chan (Scott Wilson Hong Kong) は所属する会社がイノベーションを促進する労働環境をどのように創出するかの見識を示した。失敗を非難しない文化を醸成する、会社での表彰を通してイノベーションの達成を認識する、イノベーションを最優先事項とし、業務管理をするようなビジネスの運営といったものが実例として挙げられた。なお、イノベーションを目指す組織の潜在的な可能性は、最終的には、イノベーションを行うスタッフの能力によってしまう点にも言及された。

水曜日の午前中に続いて最後の3つのビジネスセッションとして、7-イノベーションの手段、8-知識管理、そして9-リスクと報酬について紹介された。イノベーションの手段の実例では、炭素のライフ・サイクルに係わる持続可能性決定モデルが紹介され、事業が複雑化する中、様々な投入を通して CO2 のライフ・サイクルを最小化し、持続可能性を最大化するようなモデルが試みられている。組織内で中核となる分野を確立する上で、知識管理への取り組みは、中核となる能力・技術力を特定し、必要とされる知識を収集・整理・蓄積し、他分野へ、その知識を提供・共有することが求められる。イノベーションに係わるリスクと報酬はコンサルティング産業の注目度を高め、地球規模の課題を解決する上で指導力を示し、アイデアを現実に落とし込み、知識を共有するためのコンサルティング産業のための好機である。

協議会活動の最終日は国際コンサルティング・エンジニア連盟の最終会議レポート、総会、そして Leela Kempinski ホテルでの祝宴で幕を閉じた。上記要約は会議のイベントやビジネス活動・会議についての簡単な見識について記述したものである。全ての発表に係わる詳細情報は下記サイトを参照。

<http://www1.fidic.org/conference/2010/talks/>





Thomas Jensen
Denmark

デンマークコンサルティング・エンジニア協会 —若手専門職

デンマーク若手専門職

多くの若手専門職の団体と同様に、FRI YPG(デンマークコンサルティング・エンジニア協会)の主な目的は、コンサルティング・エンジニア協会の中で強い発言権を持つことである。さらに、デンマークの中の若手専門家同士のネットワークを生み出し、維持することにある。この組織は、2005年に始まり、5年後の現在、FRI YPGは、活動の幅を広げている。

ネットワーク

FRI YPGの主な活動は、年4回のイベントであり、このイベントを通じて若手専門職同士はネットワークを構築している。そのイベントでは、若手専門職が専門家としての仕事の経験について共有、討論することができ、また、他の若手専門職から様々な意見をもらうことができる。また、イベントに、スピーカーを招き、エンジニア業界で「一般的に」物事がどのように進んでいるのかについて違った角度やアプローチについて講演し、大きな成功を収めている。その講演をきっかけに、若手専門職者間で討論が始まることもある。

FRI ネットワークは、FRIに関わる情報が常に更新されているウェブページやフェイスブックを通じて継続されている。



2009年に開催した FRI YPG 運営グループの sea windmill park への旅行

科学やエンジニア分野に若者を魅了する

現在、多くの大学で科学やエンジニア分野への応募が減少傾向にある。加えて、近い将来、専門家がかなり不足すると予想されていることを受けて、若者に科学やエンジニアに興味を持ってもらうことが、FRIにとって一番の関心事となっている。ERI YPは、多くの案を提案し次にあげる進行中のプロジェクトに参加している。

「未来都市」

2010年8月からのニュースレターで説明したとおり、コンサルティングエ

ンジニアとして働く学生にとって、未来都市は双方向的な教育の場である。FRI YP はプロジェクトの支援を開始し、後に会員の一人が、2009 年の第一期の末に行われた全国大会“City slam”に、審査員として参加した。

「訓練生へのガイドライン」

デンマークでは、近年の教育制度の変革によって、若くしてコンサルティングエンジニアとして働くことがどれだけ良いことかを伝えるのが重要になってきた。デンマークの学校(小学校と中学校をあわせたものに相当する)では、多くの生徒が企業で一週間の職業訓練を経験する義務がある。われわれは、これが良い機会であり、生徒たちが良い印象を持って帰っていくことが非常に重要であると感じている。訓練生の年齢は、だいたい 14 歳である。FRI YP の運営委員会は企業に積極的に取り組んでもらうために、ガイド冊子を用意した。ガイドでは、企業がこの訓練をどのように準備し、構成し、無駄を省くかの事例が挙げられている。内容は最終の見直し段階にあり、まもなく FRI の主な組織が会員への周知を実施する。



2010 年 10 月に実施したイベントには、デンマークの元海軍軍人とともに、200 人近い若手コンサルタント(40 歳未満)が参加した。このイベントは、FRI YP によって企画された。

FRI YP の活動については、ウェブサイトもしくは、フェイスブックを参照してください。

<http://www.facebook.com/#%21/group.php?gid=48799247303>

または

<http://www.frinet.dk/fri/fri---young-professionals.aspx>

Thomas Jensen

Klaus Bangshøj

Rambøll A/S

Hannemanns Allé 53, 2300 København S, Denmark



Tomoyuki Kitano
Japan

FIDIC 若手技術者オープンフォーラム

2010年9月20日、インドのニューデリー市にて、多くの若手専門職と熟練技術者を前に若手専門職オープンフォーラムが開催された。フォーラムは、南アフリカ、アメリカ、イラン、日本およびインドからの若手専門職による後継者育成に関する若手技術者の見解・視点に基づく発表から構成され、各々の発表は、企業形態、先進国と発展途上国などで異なる後継者育成の実情に触れる等、その内容は多岐にわたった。以下、5名の発表者のプレゼンテーション内容について、それぞれ概略紹介をする。なお、発表内容の詳細を確認できるプレゼンテーションスライドは、以下のURLより入手することができる。

<http://www1.fidic.org/conference/2010/talks/>

1. 後継者育成の重要性

南アフリカの Michel Kruger により、後継者育成の重要性、期待される効果について紹介された。南アフリカの若手専門職が求める後継者育成は、強力な指導制度、離職後の熟練技術者確保による技術移転、若手専門職フォーラム等の会議への参加、人脈形成の機会創出、企業戦略会議への参画等である点という考えが示された。

2. 目の前の業務に全力を尽くす!!!

元 YPF 議長の Richard Stump からは、Stanley Consultants における後継者育成の事例紹介がなされた。所属する若手専門職の育成のために、Stanley Consultants は若手専門職への責任の付与、外部教育プログラムへの参加機会の提供、社内での教育制度の採用、外部会議への参加などの組織強化を実践してきている。加えて、Mr. Stump からは、将来望むポジションに就くための高い教育の獲得、現在の役割における責任の探求、社内教育制度確立の追及と共に、加えて、目の前の業務に全力を尽くし将来への準備を進めることについての助言がなされた。

3. Iranian Society of Consulting Engineers (ISCE)における事例紹介

ISCE の若手専門職を代表して、Mandana Cont による後継者育成事例の紹介が行われた。イランでは革命の後、きわめて大きな世代間ギャップが発生したとされている。この事態の打破を目的に、ISCE では後継者育成に関するヒアリングを各企業に対して実施してきた。若手専門職にとって最も重要な保持要素として、能力向上、新しい考えに対する理解、能力や給与に即した責任の付与があげられるとの結果であった。また、同族経営企業の運営事例と共に、後継者育成についての紹介がなされた。他では、企業規模、若手経営者数、経済の安定性、若手家族メンバーの経営陣への配置、若手経営者への会社株式の付与などが後継者育成に最も影響する要素として紹介され、パネルディスカッションに向けてのいくつかの情報提供となった。

4. ドーナツのような技術者にならないように・・・

日本からは AJCE を代表して、筆者が会員企業で実践されている2種類の後継者育成プログラムについて事例紹介した。現在のコンサルティング業界における若手専門職を取り巻く環境は、限られた時間の中でより複雑化した事象を扱うことが必要とされ、また、膨大な情報が取り扱われる一方で現場での経験機会がより減少している環境下であり、加えて、世代間のコミュニケーションギャップが存在する中でのチャレンジの連続である。もはや、先輩技術者の背中を見てノウハウを学ぶ日本の伝統的な指導制度は、その実効性がなくなってきており、これらのすべての状況が、日本の若手専門職をドーナツのような中身の無い技術者にしてしまうリスクを課してしまっているのではと、その危機感を表明した。

これらの現状を体系的に改善することに貢献している事例として、テクニカル・デベロップメント (TD: Technical Development) 研修とそのフォローアップ研修を紹介した。本プログラムは、対象となる30歳の若手専門職に対し、経験豊富な先輩技術者がキャリア・デベロップメントを達成するためのアクションプラン策定の支援を行うものである。TD研修の5年後に、同様の指導員が彼らの達成状況をモ

ニターし、更には、目標を達成できるよう動機付けを行うフォローアップが実施されている。また、他の例として、テクニカル・コーチング・プログラムを紹介した。これは、若手専門職の設定した目標に基づき、先輩技術者が道標を示すなどのアドバイスを行い、定期的なモニタリング制度を含めたオン・ザ・ジョブ・トレーニングやオフ・ザ・ジョブ・トレーニングを実施するものである。今回紹介した2つのプログラムにより育成された後継者の紹介が可能となれば、上記プログラムの有効性や価値を示すことが出来るのではと、その機会に期待している。

5. 若手技術者の望む後継者育成

最後に、インドの Atasi Das により、若手専門職が望む仕組みとして、若手専門職と熟練技術者間のギャップを埋めること、効果的な指導体制や職場内研修などの教育制度の充実が挙げられているとの報告がなされた。アジア諸国と西欧諸国間での会社組織構成に昇進の仕組みが異なる点があげられたが、これは極めて興味深いものであった。一般的に、西欧諸国の企業においては経営に関わるまでにかかる年数がアジア諸国に比べて短い。多くの若手世代は、こういったアジア諸国の伝統的な仕組みを変えていき、早い段階から経営に関与できることを望んでいるとの意思表示がなされた。

また、同族経営企業において実践すべき最も重要な事項として、指導および教育制度の確立が薦められ、併せて、経営のための戦略計画セッションに豊富な人材を投入し、高い評価と責任付与の実践、素質ある人材の調達、育成という戦略が重要であるとの見解が示された。

パネルディスカッション概要

5名によるプレゼンテーションの後には、聴衆の若手技術者と先輩技術者と共に、以下のトピックについてのパネルディスカッションが開催された。

- 1) 若手専門職として会社で価値を見出す部分は何か。長期間、同一企業に所属し続ける動機付けは何であるか。
- 2) 経済発展途上にある国における後継者育成問題は如何に取り組むべきか。
- 3) 経営者として、将来の幹部候補者に何を期待するか。
- 4) 分野や組織の規模別の後継者育成はどのようにあるべきか。

これらトピックに対し、聴衆者を4つのグループに分け、それぞれ1つずつの議題に対して議論を行い、パネルディスカッションの最後にそれぞれの見解が発表された。

今後の展望

世界中の事情の異なる様々な状況下での後継者育成について若手専門職と熟練技術者間で議論した結果として、全世界的に若手専門職は今以上に強固な指導制度とその機会提供を望んでいることが明確となった。コンサルタント業界には世代間の大きなギャップが横たわっており、若手専門職と熟練技術者がより強固に統合し、互いに慮っていくことが必要である。若手専門職は、彼らの到達目標が認識され、企業には、その内部構造を適切に見抜く仕組みが備わっていることに期待している。

企業経営者はチームプレーが出来る人材、忠誠心があり、また、彼らの企業内部に幹部候補者が見出された時に後継者育成や革新を実行できる人材を求めている。今後、コンサルティング業界における後継者育成の成功が共有できれば、より多くの人がその恩恵を受けることができるようになることを期待している。



Warren Bradley
UK

社会資本の開発における試み

社会資本は、生活のレベル、アメニティへのアクセス、地方や国を含む地域の成長の可能性に直接的に影響を与える重要な投資である。この記事は、社会資本投資に影響を与える幾つかの側面を紹介するとともに、社会資本の開発に関連する様々な試みを見ていくと共に、必要な投資を獲得する仕組みを明らかにする。

背景

FIDIC2009 会議では、政府や政治家、また、政策決定者に対して、社会資本の開発に関するガイドやアドバイスを行うという、エンジニアやコンサルタントの重要な役割が明らかにされた。このアドバイスは、地域、地方、国、そして、国際レベルにおいて必要とされ、将来において先導的な役割を担えるように、今、若いエンジニアやコンサルタントは貢献する必要がある。

最近、現在の生活水準を維持し、将来の成長を促進するため必要となる世界的な投資額に関する報告書が多く見られる。OECD の試算では、OECD 以外の国々の同様の試算とあわせ、今後 20 年間で、全世界で 35 兆 US ドル～40 兆 US ドルが必要であるという計算結果を示している。

このような投資量が与えられることで、イギリスの Eddington Report (Eddington Transport Study - The case for action: Sir Rod Eddington's advice to Government, HMSO,2006 <http://www.thepep.org/ClearingHouse/docfiles/Eddington.Transport.Study%20-%20Rod.pdf>)のような研究結果は、社会資本投資がそれぞれの国々に重大な便益を返していることを明らかにしている。10 倍、すなわち、10 億ドルが 100 億ドルの経済活動を生み出す。このようなプロジェクトの便益は、疑う余地もなく、様々な国々の 2009～2010 年の社会資本投資を加速させる影響を与え、経済の低迷に対応して、それぞれの経済へ刺激を与えた。

社会資本への投資を讃える評論家はいるが、開発を目的とする効果についてはない。一つの重要な試みは、道路、鉄道、水、廃棄物、防水などの分野の横断的な社会資本の開発により、分野による余剰や不足を生まないようにすることである。試みは、それぞれの国によっても異なる。アメリカやイギリスのように開発された市場では社会資本の更新が求められる一方、新たに台頭するブラジル、インド、中国のような市場では、それぞれの経済成長の要求を満足させる多くの分野にまたがる必要不可欠な社会資本の開発が求められる。

不況時における歴史的な維持の不足、あるいは、より一般的なコスト削減が、道路やビルなどの資本の悪化を加速させた。新たな、あるいは、既存の社会資本のマネジメントは、社会資本への浪費や将来への過剰な負担を避けるための重要な試みである。投資や維持、また、寿命に対する理解が不足し続ければ、2007 年にアメリカのミネアポリスで起こった高速道路 35W のミシシッピ川の橋梁の崩壊のような失敗に繋がる。それゆえに、特に、歴史的な建造物の竣工図や設計図が総合的に、すぐに見られる形で保存されていないような開発された市場において、アセットマネジメントが重要である。

社会資本会開発への資金の仕組みはさまざまである。昔ながらの税金にもとづく政府資金から、市場における民間投資、また、公共と民間投資の様々な異なる組み合わせまで。世界銀行のような組織による助成や資金の影響もまた、重要な財源で、プロジェクトを可能しており、さもなければ、必要なレベルの公共や民

間のサポートを得ることはできない。

昔からの政府資金は最も単純であるが、今日の経済状況では、資金に余裕があり、または、金融市場から低い金利で借り入れができる能力のある政府の数は劇的に減少している。

民間企業の市場による投資は、資金の豊かな民間企業とプロジェクトの経験に頼っており、そして、プロジェクトは相応のレベルの配当を配ることができる。民間企業による開発における一つの試みは、プロジェクトの実行に必要な承認及び許可のフレームワークづくりである。もし、これらが重荷や時間のかかるものの場合には、民間企業は代わりになる投資先を選ぶだろう。

官民連携

著しい可能性を有する分野のひとつは、官民連携による開発である。この革新的な方法は、ユーザからの将来的な収益、助成金や AP 料金、将来的な税金の低減と様々なリスクの分散や保険を組み合わせることにより、長期間に渡るプロジェクトを実現可能にする。パブリックプライベートパートナーシップ (PPP) やプライベートファイナンスイニシアチブ (PFI) プロジェクトが、これらの重要な例であるが、それら以外にも他の民間投資を促進させることが可能な、規制下における独占を形成する政府規制と関連する民間部門を結合させた公共サービス民営化の事例がある。

これらの提携における重要な課題のひとつは、インフラの構築だけではなく、維持管理が必要な期間についても、その役割と責任を明確に定義することである。法律に基づくプロジェクト仕様書の草稿は非常に複雑となるため、必要な変更が生じた際の履行や補償に対して、適用や手順の構築が重要である。特に技術の進展が関わるものは、将来変更が生じる可能性を慎重に考える必要がある。

もう一つの重要な課題は、プロジェクトやインフラ投資の管理や監視方法であり、公共団体や特定団体は、プロジェクト管理の移譲に問題を抱える例が多い。従来手法に基づいた介入による問題解決は、インフラ調達と管理における革新や改善を抑制する。

未来への挑戦 - Future Challenges

民間と公共セクターのパートナーシップに関する戦略に示されている一つの要点は、イギリスの政府が今後 5 年間に必要なイギリスでの投資 2000 億ポンドの内、少なくとも 75% は民間部門からの拠出になることを示している。この戦略を成功させるためには、投資に向けた適正な枠組みを政府が提示することが重要になってくる。また可能な限り、戦略は政権交代に関係なく、長期間を見通したものであることが重要である。短期、中期、長期の戦略が必要で、その例としてエネルギーインフラの開発を挙げることができる。原子力発電は低二酸化炭素発生エネルギーとして好まれる方法かもしれないが、電力供給までに必要なタイムスケールは非常に長いために、エネルギー需要を確実に満たし続けるためには、ほかの短期あるいは中期的なタイムスパンで供給開始できるエネルギーインフラの整備が必要になるかもしれない。

より幅広い挑戦では、一步退いて考える必要もあるかもしれない。それは作られた成長シナリオなのか、本当の需要であるかを考える必要もあるかもしれない。将来の需要を抑えるために、より少ないエネルギーや水を使用するように

人々の習慣を変えることができるか、あるいは技術の進歩によって効率を上げ、需要を抑えることができるかを考える必要もあるかもしれない。

もう一つ考慮しなければならないのはインフラ開発のライフサイクルコストである。戦略的展望を持つためには、インフラの建設、運用、維持管理を含めた設計寿命期間と可能な延長運用期間、さらにその廃棄までを考える必要がある。資金には限りがあり、需要はどんどん増加するので、これらは必ずしも容易ではない。

これらはすべて技術者とコンサルタントが考えなければならない問題である。そして、私たち若手専門職グループのメンバーが、これらの問題を把握し、クライアント、政府、および他の分野の専門家が賢いインフラ投資を行い、それを効率的に実施するように、適切な提案をすることが重要となる。

FIDIC 若手専門職フォーラムではウェブサイト上にディスカッション・フォーラムを開設して、この問題を話し合う若手専門職の仲間を集めたい。そこでは、私たちの知見と経験を共有して私たちの知識と能力を向上し、この業界の未来を確実に持続可能で実現可能にするために貢献したいと思っている。

私たちのディスカッション・フォーラムへの参加を歓迎します。コンタクト先は以下の通り。

<http://ypf.fidic.ch/forum/Pages/Discussion.aspx>



Manoochehr Azizi
Iran

FIDIC 若手専門職経営トレーニング・プログラム

国際コンサルティングエンジニア連盟(FIDIC)は、年一回、若手専門職経営トレーニング・プログラム(YPMTP)を組織し実施している。この YPMTP の目的は、将来マネージャとなる若手をコンサルティング会社の主要経営およびビジネス実務問題の分析に従事させることである。YPMTP は以下の 2 つのフェーズから構成される：

-フェーズ 1 は 7 カ月間のウェブベースでのトレーニング期間である。YPMTP 参加者は、この段階でタイムゾーン別のチームに分けられる。

-フェーズ 2 は 3 日間のワークショップで構成される。このワークショップは、大会開催地に集合する全ての参加者のため、年に一度の FIDIC 大会直前に開催される。そして、Future Leaders Workshop 中の会議で発表される最終報告書および結論をもって終了となる。

FIDIC YPMTP 参加者は、通常は 30～35 歳で英語が流暢、これまでにマネジメントの経験を持っているコンサルティング業界の若い専門職である。

参加者はインターネット施設（特に掲示板、ディスカッションフォーラム、マルチメディアコンテンツを提供する eFIDIC トレーニングプラットフォーム）へのアクセスが比較的良好でなければならない。対話式テレビ会議セッションには BT LiveMeeting ウェブ会議プラットフォームが利用された。

YPMTP10

YPMTP10 は 2010 年 2 月 8 日に始まり、ウェブベースのトレーニングは 2010 年 8 月 9 日まで行われ、9 月 15～19 日の FIDIC 年次大会前の 3 日間のワークショップをもって終了した。年次大会は 2010 年 9 月 20～22 日にニューデリー（インド）で開催された。



YPMTP10 のために FIDIC が任命した指導担当者は、Ben Novak（カナダ）、Dick Kell（オーストラリア）、Bayo Adeola（ナイジェリア）であった。ファシリテーターは Steen Frederiksen（SF-Consult、デンマーク）であった。Peter Boswell（FIDIC）はプログラム管理と eFIDIC プラットホームの責任者であり、Sylvia Fossati（FIDIC）が支援を行った。

今年の YPMTP には世界の 23 カ国から総勢 51 名が集まった。参加者全員がタ

イムゾーン別の3チームに分割された。Phase 1の期間中、3つのケーススタディについて協議およびワークショップがチームによって行われた。さらに、Phase 1ではウェブ上で以下の3つのケーススタディについて討議がなされた。

1. 会社組織と人材育成
 - コンサルタント会社の組織化
 - 運営と業務の体系化
 - 人材管理
2. ビジネス開発のための枠組み
 - ビジネス開発
 - 財務管理
 - 施主との信頼関係およびコミュニケーション
 - リスク管理
3. ビジネス開発のための手段
 - 持続可能なビジネス
 - 品質管理
 - ビジネス公正管理
 - 発注者/コンサルタントモデルサービス契約 (FIDIC ホワイトブック)

4日間のワークショップにおいて、全ての参加者および指導担当者は午前9時から午後5時までこれらのトピックスについてさらなる協議を行ない、最終的に3つすべてのケーススタディについて意見をとりまとめた。そして参加者は彼等が今回得られたこと全てを元に要旨を作成した。この最終報告書と成果は「将来のリーダーワークショップ」セミナーで発表された。この発表会において、将来のリーダーである全ての参加者は、彼等の専門分野の将来に対する考え、イメージそして希望についても発表した。そして、全ての参加者には Gregs Thomopoulos FIDIC 会長と Steen Frederiksen YPMTP 世話役からプログラム修了証が授与された。



YPMTP11

YPMTP11 への参加登録は現在受け付け中である。今年の参加費は 2300 ユーロで、これにはチュニスで開催予定の 2011 年 FIDIC 年次大会の参加費用も含まれている。詳しい情報については、以下のホームページで確認することができる。

<http://ypf.fidic.ch/training/Pages/default.aspx>

NEWSLETTER

YOUNG PROFESSIONALS FORUM
INTERNATIONAL FEDERATION OF CONSULTING ENGINEERS



Michele Kruger

FIDIC YPF を広げましょう！

皆さんもこの若いダイナミックなグループの一員になって、最新版のニュースレター、イベント（例えば FIDIC 会議とトレーニング機会）に関する情報を入手しませんか。

私達 FIDICYPF グループはあなたの国の YPs が何をしているか、そして、彼らとどのように関わっているかを調べています。下記のアドレスから YPF ホームページにアクセスして情報をお寄せください。

登録頂いた方には、ニュースレターやインフォメーションを送付いたします。あなたの情報の更新もお忘れなく。

私達と FIDIC に関する情報はこちらから。

<http://www1.fidic.org/resources/young/default.asp>

更に詳しい情報が必要な方や私と直接コンタクトを取りたい方は、下記のアドレスへ直接ご連絡ください。

fidicypforum@gmail.com

Michele Kruger
FIDIC YPF 運営委員会 議長
コミュニケーション担当責任者

あなたの国でも YPF を作りましょう。

FIDIC YPF と各国の YPFs の活動が気に入ったら、今度はあなたの国の番です。あなたの国の FIDIC 会員協会(MA)を通して、YPF を組織するのが最もよい方法です。しかし、そのような協会が存在しない、あるいは、あなたの国の MA が YPF を持ちたくないならば、あなた自身で YPF を始める方法を一緒に考えるために、我々に連絡を下さい。FIDIC を通して、我々はあなたの国で YPF を組織するために協力します。あなたに必要なのはエンジニアリングに対する熱意だけです！ その熱意からあなた自身であなたの YPF が何を代表するのかを決めてゆきます。何にフォーカスをおきましょう？それは若手エンジニアのトレーニングでしょうか？若い世代がエンジニアリングに興味を持つようにすることでしょうか？それとも仕事仲間を集めた社交界のようなもの？または、これら全てですか？

FIDIC YPF として、我々はあなたの新しい努力を支援するためにできるだけのことをします！

連絡は：fidicypforum@gmail.com

NEWSLETTER

YOUNG PROFESSIONALS FORUM
INTERNATIONAL FEDERATION OF CONSULTING ENGINEERS

FIDIC YPF News Letter 2010 年 12 月号

下記の方々に翻訳を協力いただきました。
ご多忙の中大変ありがとうございました。

(順不同・敬称略)

原 崇	〇 Y O インターナショナル(株)
矢神 卓也	(株)建設技術研究所
甲斐 慎一郎	(株)建設技術研究所
高樋 直人	(株)日水コン
赤坂 和俊	(株)日水コン
今福 繭	(株)オリエンタルコンサルタンツ
門司 崇宏	(株)オリエンタルコンサルタンツ
宗広 裕司	(株)長大
手塚 誠	(株)長大
長谷川 正	(株)長大
三好 孝明	(株)長大
中島 隆志	(株)建設技研インターナショナル
大田 孝	基礎地盤コンサルタンツ(株)
北野 知行	日本工営(株)

取りまとめ
AJCE 技術研修委員会 YP 分科会
担当 北野 知行
日本工営(株)